

1. 温室効果ガスの排出抑制

オフィス電力使用量などのグループ環境目標を設定し、省エネ活動、省エネ機器の導入及びエコドライブ等をグループ一体となって推進しています。

2015年度のCO₂排出量は、電力の使用量が増加したことから、2014年度より増加しました。また、CH₄の排出量が2014年度より増加しているのは、2015年8月の台風15号の影響による発電所の緊急停止に伴い、安全対策として燃料であるLNGガスを大気中に放散したことによるものです。

WEB 詳細は九州電力ホームページ
関連・詳細情報 (P2参照) >

温室効果ガスの排出量の詳細実績 (グループ会社)

温室効果ガス排出量

単位：千トン-CO₂

	2013年度	2014年度	2015年度
CO ₂ (二酸化炭素)※1	152.5	153.3	147.4※2
CH ₄ (メタン)※1	0.1	0.1	2.7
N ₂ O (一酸化二窒素)※1	0.0	0.0	0.0
HFC (ハイドロフルオロカーボン)	115.3	87.6	67.1
PFC (パーフルオロカーボン)	—	—	—
SF ₆ (六フッ化硫黄)	0.0	0.0	0.0
合 計	267.8	237.2	217.3

(注) 四捨五入のため合計値が合わないことがある。

※1：電力会社等への販売電力量分 (発電用燃料の燃焼に伴う排出量) を除く。

※2：2015年度の販売電力量あたりのCO₂排出量 (調整後) を使用して試算。

各種エネルギー使用量

			2013年度		2014年度		2015年度	
			単位		会社数		使用量	
電力	オフィス	百万kWh	41	25.5	42	23.5	41	22.8
	工場等	百万kWh	33	178.8	33	181.1	33	206.9
燃料	車両等	ガソリン等 千ℓ	44	6.8	45	6.9	45	6.7
	冷暖房用	千ℓ	7	0.1	7	0.1	8	0.3
	工業用※	A重油等 千ℓ	12	1.3	12	1.2	10	1.1
		LNG, LPG 千トン	7	1.2	7	1.2	7	1.1
熱	蒸気等	百万MJ	3	38.4	3	42.4	3	43.8

※：電力会社等への販売電力量分 (発電用燃料) を除く。

再生可能エネルギーの積極的な開発・導入

国産エネルギーの有効活用、並びに地球温暖化対策面で優れた電源であることから、再生可能エネルギーの積極的な開発・導入を進めています。

グループ各社のうち17社が太陽光・風力・バイオマス発電などの再生可能エネルギーの設備を導入しており、再生可能エネルギー設備の工事施工や設計業務に関わるグループ会社を含めると、20社が設備導入や開発に携わっています。

西技工業(株)では、再生可能エネルギーの中でも天候の影響が少ない小水力発電の建設に、地点選定から設計・施工まで一貫して取り組んでいます。

2015年6月には、鹿児島県始良市において「日本の滝百選」にも選ばれた龍門の滝などを形成する独特の大地にできた約50mの落差を利用した出力150kWの龍門滝発電所の営業運転を開始しました。営業運転開始による年間のCO₂排出抑制量※は約580トンに相当します。

また、2016年4月には、佐賀県鹿島市において、県営中木庭ダムの放流水を活用した出力196kWの中木庭発電所の営業運転を開始しました。営業運転開始による年間のCO₂排出抑制量※は約660トンに相当します。

※：2015年度の販売電力量あたりのCO₂排出量 (調整後) を使用して試算。



西技工業(株) 龍門滝発電所 (奥は落差約50mの水圧鉄管)

用語集をご覧ください

>> 温室効果ガス

>> エコドライブ

>> HFC (ハイドロフルオロカーボン)

>> CH₄ (メタン)

>> N₂O (一酸化二窒素)

>> PFC (パーフルオロカーボン)

>> SF₆ (六フッ化硫黄)

>> LNG (液化天然ガス)

>> LPG (液化石油ガス)

>> 地球温暖化

>> 再生可能エネルギー

>> バイオマス